

# 平成22年度実施施策に係るモニタリング

(文部科学省22-10-1)

施策目標	ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進					
施策の概要	「生命現象の統合的理解」を目指した研究を推進するとともに、「研究成果の実用化のための橋渡し」等の推進、および「世界最高水準のライフサイエンス基盤」の整備を重視し、国民への成果還元を抜本的に強化する。					
達成目標及び測定指標	達成目標(1)	蓄積された知見、技術を活用し、医学・薬学への貢献、産業応用に向けて生命現象のさらなる解明を図る。				
	測定指標	基準値	実績値(進捗状況)			目標値
		-	20年度	21年度	22年度	-
	学術研究や産業振興において重要なターゲットとなるタンパク質の構造解析数	-	約266	約350	約464	300 (23年度)
	年度ごとの目標値	/				
	参考指標					
	脳科学研究の成果の論文数	-	約130	約220	約260	-
	細胞・生命プログラムの解明に向けて解析した細胞種の数	-	-	約10	109	-
	達成目標(2)	革新的がん医療技術や臨床研究・臨床への橋渡し研究などを通じ、先端的医療の実現に資する知見の蓄積、技術の開発、またそれに必要な環境の整備を図る。				
	測定指標	基準値	実績値(進捗状況)			目標値
		-	20年度	21年度	22年度	-
	粒子線がん治療に係る人材育成プログラムの研修修了者数(累積)	-	1	6	12	40程度 (23年度)
	分子プローブの製造法の開発・実用化数(累積)	-	57	71	-	毎年10個
	分子イメージング研究戦略推進プログラム採択課題のうち、臨床に向けたPOC(Proof of Concept)の取得数	-	-	-	0	8 (26年度)
	年度ごとの目標値	/				
参考指標						
橋渡し研究支援拠点で支援しているシーズのうち、臨床研究を実施している課題の数	-	12	17	24	-	
疾患特異的iPS細胞の樹立数	-	5	22	40	-	
達成目標(3)	新興・再興感染症克服技術など、社会の安全・安心の確保に必要な知見の蓄積、人材の養成等を図る。					
測定指標	基準値	実績値(進捗状況)			目標値	
	-	20年度	21年度	22年度	-	
研究拠点の整備の進捗度合いと、拠点を利用した研究の達成度	研究拠点の整備が順調に行われ、拠点を利用した研究についても順調に進められている。			-	(平成22年度で事業終了)	
事業を通じて育成した研究人材の数	-	-	-	104	前年度比増	
年度ごとの目標値	/					

	達成目標(4)	ライフサイエンス研究を支える世界最高水準の基盤を整備する。				
	測定指標	基準値	実績値(進捗状況)			目標値
		○年度	20年度	21年度	22年度	—
	カタログDB数	平成21年度	596	808	912	800 (22年度)
	横断検索DB数		236	244	270	240 (22年度)
	DB受け入れ数		11	30	45	30 (22年度)
年度ごとの目標値		—	—	—		

  

施策の予算額・執行額等 上段:単独施策に対応する経費 下段:複数施策に対応する経費	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	
	予算の状況 (千円)	当初予算	19,970,876 <184,638,783>	17,269,645 <175,179,435>	(17,027,195) <(175,890,070)>	(67,753,227) <(205,938,950)>
		補正予算	6,094,648 <37,322,095>	0 <922,916>	(0) <(110,000)>	
		繰越し等	1,859,337 <△24,680,451>	606,774 <35,649,042>		
		合計	27,924,861 <197,280,427>	17,876,419 <211,751,393>		
	執行額(千円)	27,893,631 <196,880,865>	17,799,879 <208,008,404>			
備考	政策評価体系の変更に伴い、当該施策目標は平成23年度より「ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進及び倫理的課題等への取組」に移行しているため、施策の予算額・執行額等のうち23年度・24年度の当初予算等は施策目標「ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進及び倫理的課題等への取組」の数値をカッコ書きで入力している。					

  

施策に関係する 内閣の重要政策	名称	年月日	関係部分(抜粋)
	第3期科学技術基本計画	平成18年3月28日	第1章 1.(1)② 国家的・社会的課題に対応した研究開発については、目指すべき国の姿(3つの理念)への寄与が大きいと判断される4つの分野(ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料)に特に重点を置き優先的に資源配分を行う。
	新成長戦略～「元気な日本」復活のシナリオ～	平成22年6月18日	成長戦略実行計画表(工程表) Ⅱ ライフ・イノベーションによる健康大国戦略 ・医療技術実用化を加速する臨床研究コンソーシアムの検討・創設、重点研究テーマの設定、研究支援人材配置・研究費の重点配分・先進医療等の規制緩和 ・再生医療に関する前臨床－臨床研究事業の一元的な公募審査 ・再生医療の公的研究開発事業のファンディング及び進捗管理の一元的実施 Ⅴ 科学・技術・情報通信立国戦略 ・東アジア・サイエンス&イノベーション・エリアの構築 ・イノベーション創出に必要な研究・実証・成果普及上の規制・制度・体制の整備、革新的技術分野に関する官民連携や省庁連携を含めた資金供給の円滑化 ・課題解決型研究開発プロジェクトの推進(大規模疫学研究、技術実証・国際標準化等との一体的な研究開発プロジェクト等) ・新技術開発や新分野開拓を創出する基盤の整備(規制の見直し体制、ワクチン開発基盤、新技術の性能・安全性の評価・認証拠点、創薬・医療技術支援基盤、生命動態システム科学等)
	総合科学技術会議 「科学技術に関する基本政策について」に対する 答申	平成22年12月24日	Ⅱ. 成長の柱としての2大イノベーションの推進 3. ライフイノベーションの推進の記述
	新成長戦略実現2011	平成23年1月25日	○創薬等支援技術基盤プラットフォーム ・「創薬等支援技術基盤プラットフォーム」として整備された技術開発拠点について、創薬研究等を行う研究者等が広く利用できる外部開放を進めながら創薬研究を推進。検討会を設置し、創薬・医療技術支援基盤に係る基本的考え方を取りまとめ、公表。
	iPS細胞研究ロードマップ	平成21年6月24日	全文
	iPS細胞(人工多能性幹細胞)研究等の加速に向けた総合戦略	平成19年12月20日	全文
	科学技術・学術審議会 「長期的展望に立つ脳科学研究の基本的構想及び推進方策について(第1次答申)」	平成21年6月23日	全文
	科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 ライフサイエンス委員会 「新たなライフサイエンス研究の構築と展開」	平成21年12月7日	全文

	科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会ライ フサイエンス委員会がん研究戦略作業部 会「がん研究の現状と今後のあり方について」	平成22年6月1日	全文
	「化合物ライブラリーを活用した創薬等最先端研 究・教育基盤の整備」に係る基本的な考え方につ いて	平成23年1月5日	全文
有識者会議での指摘事項			
指標に用いたデータ・資料等	委託業務成果報告書		
主管課(課長名)	研究振興局ライフサイエンス課(石井 康彦)		
関係局課(課長名)	研究振興局研究振興戦略官(岡村 直子)		

(参考) 関連する独立行政法人の事業

独法名	22年度予算額(千円)	事業概要
独立行政法人理化学研究所	運営費交付金の内数	<p>○脳科学総合研究事業 我が国の脳科学を総合的に牽引する中核的研究機関として役割を果たすとともに、分子から神経回路を経て心に至る脳の仕組みを解読するといった科学の飛躍的進歩をもたらす研究を推進する。</p> <p>○植物科学研究事業 代謝物解析と遺伝子探索に重点をおいて、植物の生長、形態形成、環境応答などの植物に特有な制御・応答メカニズムの解明研究を実施し、植物の質的・量的な生産力の向上を目指す。また、遺伝子組換え作物の安全性評価に資するため、在来種との実質同等性を解析するための基盤を整備する。</p> <p>○発生・再生科学総合研究事業 細胞治療・組織再生など医学的応用につながるテーマの基礎的・モデル的研究を効率的に推進し、得られる成果を広く応用分野に発信するとともに、発生生物学の新たな展開に貢献する。</p> <p>○免疫・アレルギー科学総合研究事業 現代社会が抱える重要課題の一つである免疫・アレルギー疾患の基礎的・総合的解明の研究を通じ、免疫・アレルギー疾患等の克服に貢献に資する。基礎基盤研究を通して、疾患発症原理を明らかにし、制御基盤技術の確立や研究成果の応用を加速するためのプラットフォームの構築を目指す。</p> <p>○ゲノム医科学研究事業(遺伝子多型研究事業) ヒトゲノムの遺伝子領域におけるSNP(一塩基多型:個人ごとの塩基配列の違い)情報を活用し、関節リウマチ等の疾患や薬剤応答に関連する遺伝子を同定し、創薬をはじめとする新しい治療法や診断法等の開発に資する。</p> <p>○分子イメージング事業 低分子化合物や高分子化合物に対する放射性元素による標識合成の技術開発、生活習慣病や難治性疾患の予知・診断・治療薬の開発へつながる研究開発、分子イメージング技術の高度化を目指した開発等を行う。また、分子イメージング技術を適用した新たな創薬プロセスを推進するための技術的基盤を確立する。</p> <p>○ライフサイエンス基盤研究領域事業 遺伝子とタンパク質等のレベルで生命現象を理解するオミックス基盤研究領域及び生命分子システム基盤研究領域、並びに膨大な実験データの利用技術を研究する生命情報基盤研究部門からなるライフサイエンス基盤研究を推進する。</p>
独立行政法人放射線医学総合研究所	運営費交付金の内数	<p>○重粒子線がん治療研究 高度先進医療としての重粒子線がん治療を進めるとともに、膵がん等の難治がんの治療法開発に向けた臨床試験の展開や、より効果的・効率的な治療を目指した最適照射法(次世代照射システム)の開発研究等を推進する。</p> <p>○分子イメージング研究 腫瘍の性質の評価を含めた早期診断、精神・神経疾患の発症前診断・薬効評価等を可能とする分子イメージング研究に関し、世界最高水準のPET(陽電子放射断層撮像法)基盤技術を基に疾患の病態研究や治療評価法等について、研究開発等を推進する。</p>
独立行政法人科学技術学術振興機構	運営費交付金の内数	<p>○バイオインフォマティクス推進センター事業 膨大なゲノム情報等の解析の格段の効率化・省力化、利用の高度化等を実現するため、革新的なゲノム解析ツールの研究開発等、バイオインフォマティクス研究を推進する。</p>